

2 保育の場面に応じてとらえた人権保育の視点

(1) 遊び

子どもは保育所で同年齢や異年齢の友だちとかかわり、いろいろな遊び体験を積み重ねることで、心豊かに生きていくための力を身につけていきます。

人や物、いのちと自然にふれ五感を十分使った遊びは体力や好奇心、集中力、思考力を高め、想像力、感受性を豊かに育てます。また、大人との信頼関係に支えられながら、自分の力を出し、友だちと一緒に遊ぶ中でコミュニケーションがとれるようになり、遊びに必要な能力を身につけ、仲間の一人として自覚や自信が持てるようになります。

人権保育の視点

- ・ 子どもが主体的に遊びを選び、十分楽しんで満足感や達成感を味わい、自信や意欲が持てるようにする。
- ・ 群れて遊ぶ中で、人に対する信頼感や協調性といった人間関係の基礎を育む。
- ・ 遊びを通して自然の営みや社会のルールを知り、さまざまな物の特徴や違いに気づき、興味や想像力を高めながら感性を育む。

具体的な対応

- ・ 子ども一人ひとりが主体となって遊びを選択し、より豊かなものにしていくよう、一人ひとりの声に耳を傾けながら子どもの思いを大切にする。
- ・ 遊びのルールを知り、友だちと遊びを楽しみながら、子ども同士がコミュニケーションをとれるようにする。
- ・ 子どもが興味や関心をもてるように、見たり、聞いたり、さわったり、嗅いだり、味わったりできるような体験の得られる環境を整える。
- ・ 絵本、紙芝居やごっこ遊び等を通して、さまざまな人たちがいることを知り、多様性を受け入れられるようにする。

保育の事例

生活体験を通して社会性を育みます

ごっこあそび

役になりきってお互いを認め合い、「一緒に遊ぶっておもしろいなあ」と感じていきます。



いろいろな仕事や役割があることを知ったり、「女の子だから、男の子だからこうあらねば」という必要がないことを知ります。



4歳児が楽しく遊ぶ姿を見て、2歳児の目が輝きます。みんなで言葉のやりとりを楽しみます。



森のたからものさがし

ねらい

- ・ いつも遊びなれている広場。じっくり見るといろいろな自然物が発見できます
- ・ 今まで気づかなかった自然のいのちを感じることができます

すすめ方

- ・ ゲームの場所と範囲を決め、たからもの(自然物)を決めて、箱の中に入れます(3歳児なら1個、4歳児なら2個、5歳児なら3個くらいが適当)
- ・ 子どもたちに箱の中のたからものを見せます(見るだけで触らないこと、見て覚えることなどを伝えます)
- ・ 箱を開けて15秒数え、すぐにふたを閉めます
- ・ 子どもたちは決められた範囲で、たからもの(自然物)を探します
- ・ 子どもたちがたからもの(自然物)を持ってきたら、全員で箱を開けて確認します



オオバコ



ヨモギ



キンエノコロ草

こぶた組は、キンエノコロ草
ぱんだ組は、ヨモギとオオバコ
らいおん組は、キンエノコロ草
ヨモギとオオバコ
を探しました。



たから箱を観察



じっくり探しています



見つけた物の説明を聞きます。

いつも遊び慣れているわいわい広場。でも、じっくり見るといろいろな自然物が発見できました。

自尊感情を育みます

この子はだあれ

ねらい

- ・楽しく当てっこをしながら、自分は愛されているという実感をもつことができます
- ・友だちのいいところにも気づき、他者を肯定的に受容する力を育みます



すすめ方

- ・10～15くらいのグループで
- ・スクリーンの後ろに子どもが立ちます
(一人だけ呼ぶとすぐ分かるので、5人程度を呼びます)
- ・「この子はだあれ」と当てっこをしていきます
- ・その子のよいところをみんなで出し合います
- ・大人を加えての「親子シルエット」もやってみましょう

コミュニケーション能力を高めます

力をあわせて ほらできた！

ねらい

- ・友だちと協力し合って、気持ちを伝え合ってパズルを完成させましょう
- ・ゆずり合ったり、身体表現でうまくコミュニケーションをとり、完成させる喜びを味わいましょう

すすめ方

- ・5人のグループを作ります
- ・パズルの入った袋を1つずつ渡します
(袋には5種類の絵がごちゃまぜに入っています)
- ・完成後の絵を子どもの前に置きます
- ・ゲームのルールを説明します
 - * 話はしない(状況に応じて話はしてもよい)
 - * 他の子からむりやり取ってはいけない
 - * 他の子にあげるのはよい
- ・さあ5つの絵を完成させましょう
- ・完成したら話し合ってみましょう
 - * 自分の探すピースを見つけたとき、どんな気持ちでしたか？

